

2010年度第4回 Action! 地球市民(学生勉強会)

テーマ:「COP10～水と生物多様性のつながり～」

目的:今年10月に愛知県名古屋で開かれた第10回生物多様性条約締約国会議(COP10)の報告と水をテーマにしたワークショップを行い、水と生物多様性のつながりについて考える。

◆日時:2010年12月21日(火)19:00～21:00 ◆場所:沖縄NGOセンター事務所

◆ゲスト:ONE LOVE(5名)

◆担当:岸本佳子

◆参加者:2名

◇参加者の自己紹介:名前、所属、好きな生き物

◇水のフォトランゲージ

水をテーマにした3枚の写真を見て、読み取れるものを出していく。

■ボリビア・コチャバンバ水紛争…警察がいる、市民と向かいあっている、建物が壊れている、

■タジキスタンの綿花工場…ターバンを巻いた人がいる、中東の国かな？

■中国・あんき省の衣料工場…ミシンがある、何か作っている、工場、衣服かな

一見関わりのないように見える写真だが、水をテーマに繋がっている。ボリビアでは水が民営化され、暴動が起きた。民営化されたことで市民が買う水は給料の5分の1の値段になった。タジキスタンでは綿花栽培を行っており、大量の水を使う。ヒマラヤの雪解け水を使っているが、地球温暖化の影響でその水も60年代と比べると減少してきている。中国の衣服工場は2010年のもの。中国で生産される衣服にも大量の水が使われている。私たちが来ているTシャツ、ジーンズを生産している中国、その原料となっている綿、私たちの生活は海外の水や労働と繋がっている。

◇COP10の報告

193ヶ国もの人々がCOP10(第10回生物多様性条約締約国会議)へ参加した。会議は政府関係者のみで、IDカードを所持している人のみ会場に入ることができる。ONE LOVEは沖縄・生物多様性市民ネットワーク(沖縄BD)のメンバーとして参加。ブース出展や水をテーマにした紙芝居を製作、会場でも実演を行った。海外のブースも見学したが、生物多様性の危機的状況を伝えるものではなく、ビジネス主導の一環としてブースを出展している印象が強かった。また、COP10への期待は膨らんでいたが、生物多様性の保護や持続可能な社会を目指すためのものではなく、利益の配分が会議のメインになっていた。)メンバーが印象に残ったことは、COP10のような大きな会議では国と国の利害関係で物事が話されるため、本当に問題を解決するために必要なことは草の根の活動を続けていくことだと話していたこと。

◇「みんなの地球ひとつの家族」紙芝居を実演

◇参加者の意見

—COP10期間中はテレビや新聞で様子を伝えていたが、利益の配分が主で一体何をやっているのかわからなかった。

—無関心になろうと思えばどこまでも無関心になれる。自分の行動も少し考えるようになる。普通の人たちが身近なところで何気なくやっている。仲間同士やっていると頑張ろうという気持ちになる。

—学校の授業より内容も難しいし、時間も長いけど、学校の授業よりとっても楽しかったです。